



エコマネーを考える

エコマネー研究者ネットワーク

1999年8月31日

公文 俊平



ローカル・マネーの分類(加藤)

- 広義のエコマネー：発行権は住民か発行団体
 - LETS (地域交換取引制度)
 - その派生型 (WIR, イサカアワーズ)
 - 既存貨幣経済の一部を置き換える地域の独自通貨
 - すでに欧米1500以上の地域に導入
- タイムドル：ボランティア経済分化の始まり
 - すべてのサービスを「時間」で画一的に評価
- 狭義のエコマネー：利率(?)はマイナス
 - ボランティア経済専用通貨
 - 多様な値付け可能。カバーする商品の範囲も広い



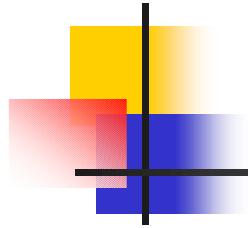
加藤氏の問題意識

- 「非貨幣部門」で使える「マネー」が欲しい（マネーの交換媒介範囲の拡大）
 - 非貨幣部門 = 環境、コミュニティ、福祉、文化
- そのさいに多様な情報や価値をを多様なままで媒介する手段が欲しい
 - 画一的な「価格」に置き換えるのではなく



商品・市場化の二つの道

- 外からの商品化
 - その媒介者：広域貨幣と商人
- 内からの商品化
 - その媒介者：ローカル貨幣
- 歴史的反省
 - 起源はどちらか
 - 商・産業化の影響：内の圧殺
 - 情報化の影響：内の復活



ノート追加



情報社会での市場化の二つの道

- グローバルな市場化：無縁の世界に縁を
 - 外への市場化：世界との交易
 - 外からの市場化：投機資金、市場開放要求
- ローカルな市場化：濃密な関係を希釈
 - 内への市場化：政府機能等のインソーシング
 - 内からの市場化：エコモディティ

私の三分法：近代の三進化局面

国家化・軍事化	企業化・産業化	智業化・情報化
闘争	競争	共働
脅迫・強制	取引・搾取	説得・誘導
再分配	交換	互酬・通有
階層解	市場解	コミュニティ解
上位主体形成	外社会形成	内ネット形成
政治選択	経済選択	社会選択
国際社会	世界市場	地球智業
外への商品化	→ ←	内への商品化

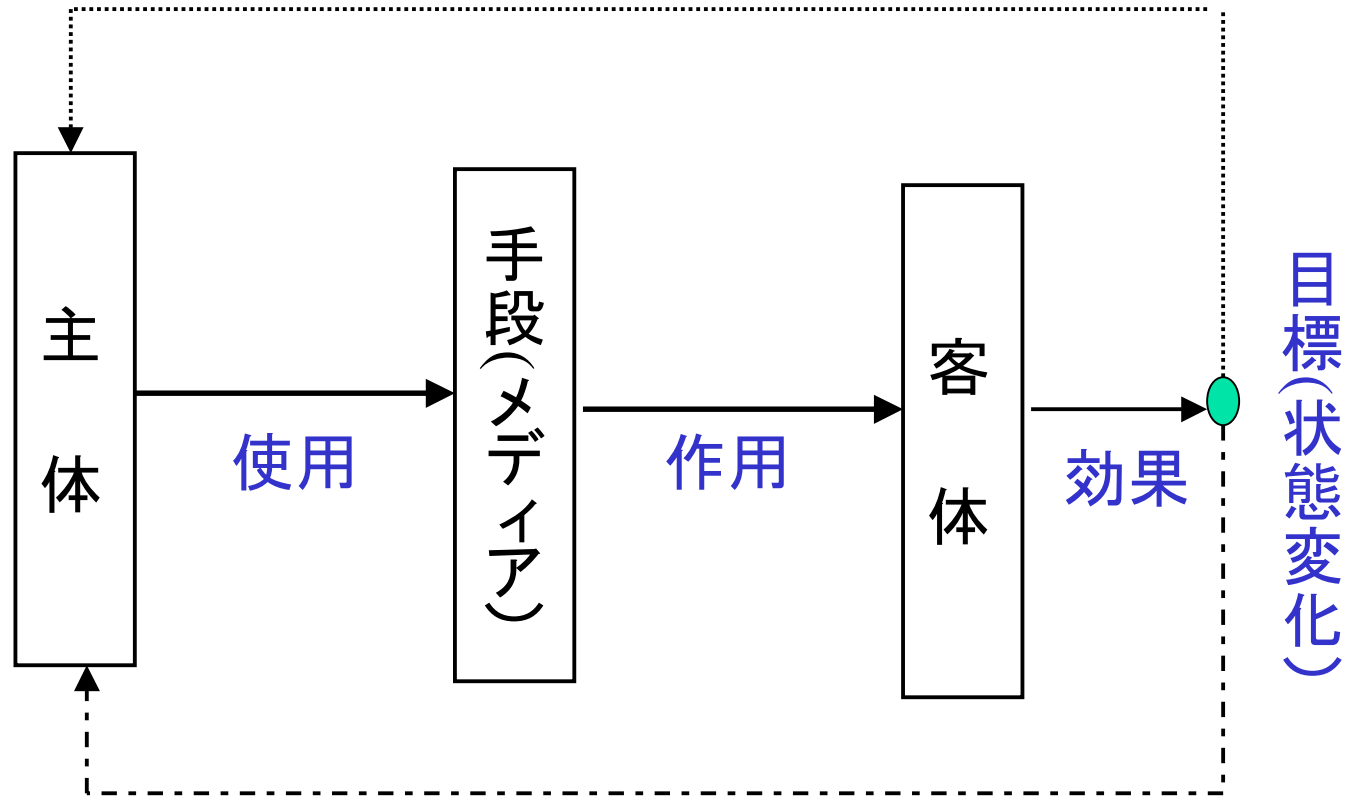


コメント：コミュニティ機能

- 帰属と目標設定と成果の享受
- 地域（コミュニティ）ごとに独自の文明・文化を創る。しかし共通の大目標あり
 - 社会が自然と共存する
存続・発展の可能な文明
 - エネルギー自給、物質循環、情報蓄積
エントロピー減少 = 進化を実現できる文明

主体の働き

情報的効果の享受



目標(状態変化)

物理的効果の享受



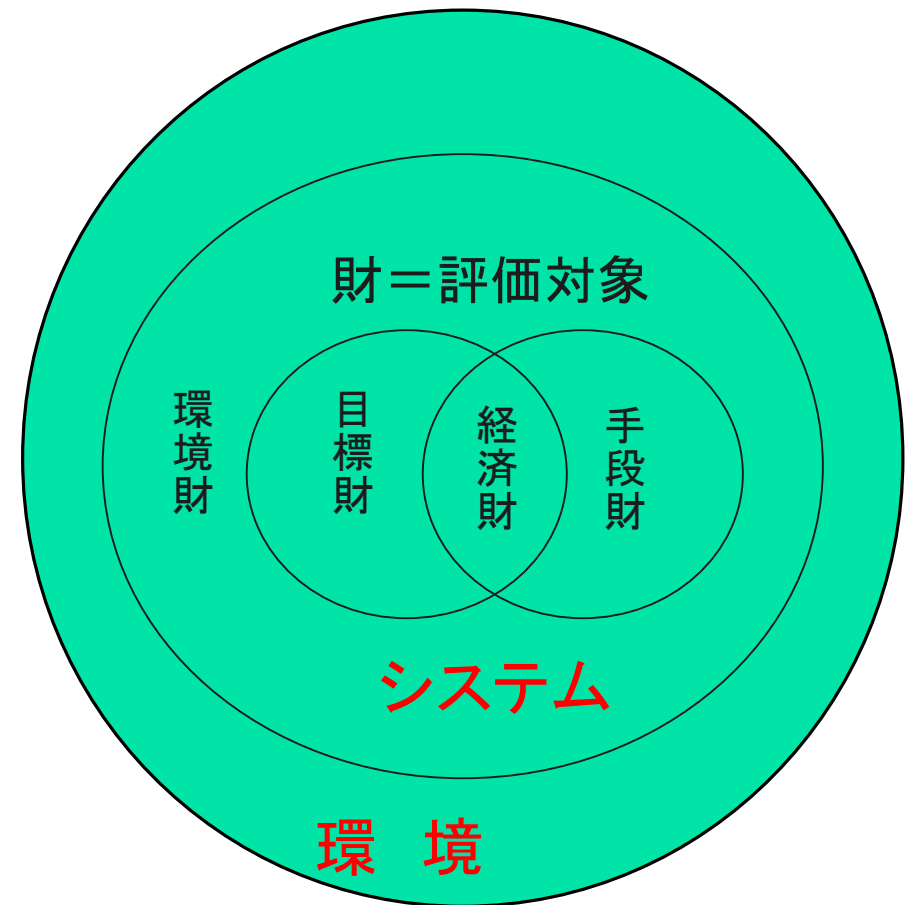
経済機能 = 手段の管理と使用

- エココミュニティで他の機能と一体化
 - 政治機能：他主体の行為の制御
 - 文化機能：文化の維持・統合
 - 文明機能：欲求満足・目標実現
- 一体化の一つの具体的な形
 - エコマネーを媒介としてエコモディティを交換する

経済とは何か

世界 = 認知対象

- 広義の経済
 - 手段の管理(入手・維持・処分)
- 財: 評価・関心の対象
 - 知の対象としての世界の一部
 - 目標財: その状態の変更が可能な財
 - 手段財: 目標実現の手段となる財
 - 経済財: 手段財 目標財





価値と情報

- 主体にとっての「価値」
 - 目標価値: 客体(の状態)の望ましさの指標
 - 手段価値: 三種のものあり
 - 使用価値: 客体状態変更力 = 目標実現力
 - 費用価値: その入手の難易にかかわる
 - 交換価値: 他手段の入手力にかかわる
- 主体にとっての「情報」: 世界を知る手がかり
 - 主体の世界イメージの構築(変更・維持)素材



環境概念の多義性（1）

- システム論的環境：

世界 = システム + 環境

- 環境 = システム設定者に関心のない世界部分
 - その範囲は時と共に変わる：システムへの繰り込みせ
- システム = 主体 + 主体環境
- 主体環境 = 社会 + 自然
- 社会 = コミュニティ + その他社会



環境概念の多義性（2）

- 身体論的環境：

世界 = 身体 + 身体環境

- アフォーダンス：身体環境が含む未知の有用性質



所有と使用

- 基本は使用と使用権
 - 主体の目標達成活動の基本は使用
- 問題は使用権の設定や譲渡
- 使用権の上位の権利としての所有権
 - ただし上位の権利にはさまざまな形態あり



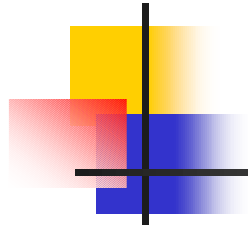
貨幣の基本機能

- 価値尺度
- 価値移転
 - 同時双方向：交換手段
 - 異時双方向：支払い・決済手段
 - 価値の一方的移転：全額～差額
- 価値保蔵



エココミュニティとエコモディティ

- イクストレーダブル・コモディティ
 - コミュニティ間商品
 - 通常のマナーがその交換を媒介
- イントレーダブル・コモディティ
 - コミュニティ内発商品
 - エコマナーがその交換を媒介



ノート追加



ローカル貨幣の出現の背景

- 供給面：住民のエンパワーメント
- 需要面：
 - 地域の経済停滞
 - 環境問題等の深刻化



商品の価格： 相場と「自由」な値づけ

- 画一的価格
 - 市場で決まる「相場」：標準価格
 - 人為的に決める価格：公定・協定価格
- オープン価格：
 - 大前提は同一品か類似品の相場の存在
 - 取引の中での値付け
 - ある相場を中心とする「ゆらぎ」
- 正札販売：一方的価格提示と交渉拒否



資本の論理とふれあいの論理

- 法のおよぶ人間生活の領域
 - 公法：国家間、国家対国民関係
 - 私法：私人間関係（資本の論理）
- 法のおよばぬ領域（ふれあいの論理）
 - 個人・家族・コミュニティ内関係
- 情報社会の新しい法域：共法
 - コミュニティ内関係
 - 智民・智業間関係



課税の論理

- 課税の対象となる活動や存在
- 納税の方式
 - 貨幣
 - 現物
 - エコマネー



貨幣の価値

- イクストリンシック価値とその安定性
 - イントラ価値
 - インター価値
- イントリンシック価値
- 貨幣価値の時間的減価
 - 貨幣の発行・取り扱い費用
 - 商品貨幣の保持費用
 - インフレーション



貨幣発行の二つの方式

- 発行機関主義
- 当事者主義
- 貨幣の発行と引き当て(準備)



貨幣と利子率

- 流動性の価格としての利子率
 - 使用しないことの報酬
- 投資収益率：オーバータイムの生産性
- 実効利子率：インフレ分を差し引く



信用創造と貸借

- エコマネーの価値保蔵機能
- エコマネーの貸借
- 「自由な値付け」の裏面：偽装譲渡



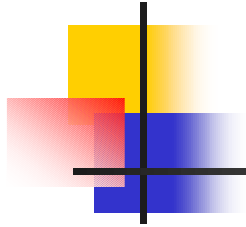
エコマネーと利子率

- 発行・取り扱い費用
- 貸借の許容とその価格



タイムドルとその問題点

- ボランティア・サービスの有償化
- 対価（未来のサービス請求権）の預託
- 預託された請求権の担保（準備）
- タイムドルの流通力：信任と準備



ノート追加



コミュニティの進化とマネー

- 情報化とエココミュニティ
- イエ社会の進化とエココミュニティ
- 交換 互酬 か 互酬 交換 か



その他（１）

- 貨幣の使い分けと相互交換
 - 用途による使い分け
 - 商品価値自体の分割
 - 三割をLETSで払うなど
- 地域貨幣とグローバル貨幣



その他（２）

- 自発的協働の文化：日本の場合
 - 定義（理論・概念化）不信
 - 現場優位主義